小栗十騎

照天姿操月鹿毛初編

金澤八景

春風亭柳枝作

上

へ13
3861
1

門へ13
3861
巻 1

小栗十騎　初篇上之巻

金沢八景

#照天松操月鹿毛

柳枝作

國輝畫

甘泉堂蔵行

其職ゐ在らびて其門ゐ遊ぶ時い心勞して
その功ゐ然まことにぐも走る者い道をえ〳〵
つび川狩い川ゐそて山狩い山ゐ終る世俗の言
葉むびるる邦肘を曲り〳〵桃とそる毛唐人ゐ
樂くなるまでなき智恵と震ひ出し〳〵
苦しむも亦好々まる〳〵聊生を樂むゐ足きる
今世上ゐ行つる〳〵赤本の様々ゐる長し〳〵短し〳〵色あり
實なり春の詠の桃櫻一枝折るんまりと小栗ゐ猛き
馬の蹄ゐ道を求めて心ゐ〳〵も照天松の影ゐより操曇らぬ
月をなり〳〵其藤澤の驛路ゐ手綱をとるん〳〵云云

嘉永甲寅初春　春風亭柳枝記

小栗孫五郎満重
小栗小次郎
石井判官代助重

横山太郎安秀
名武篤光息女照天姫

藤代川漁父

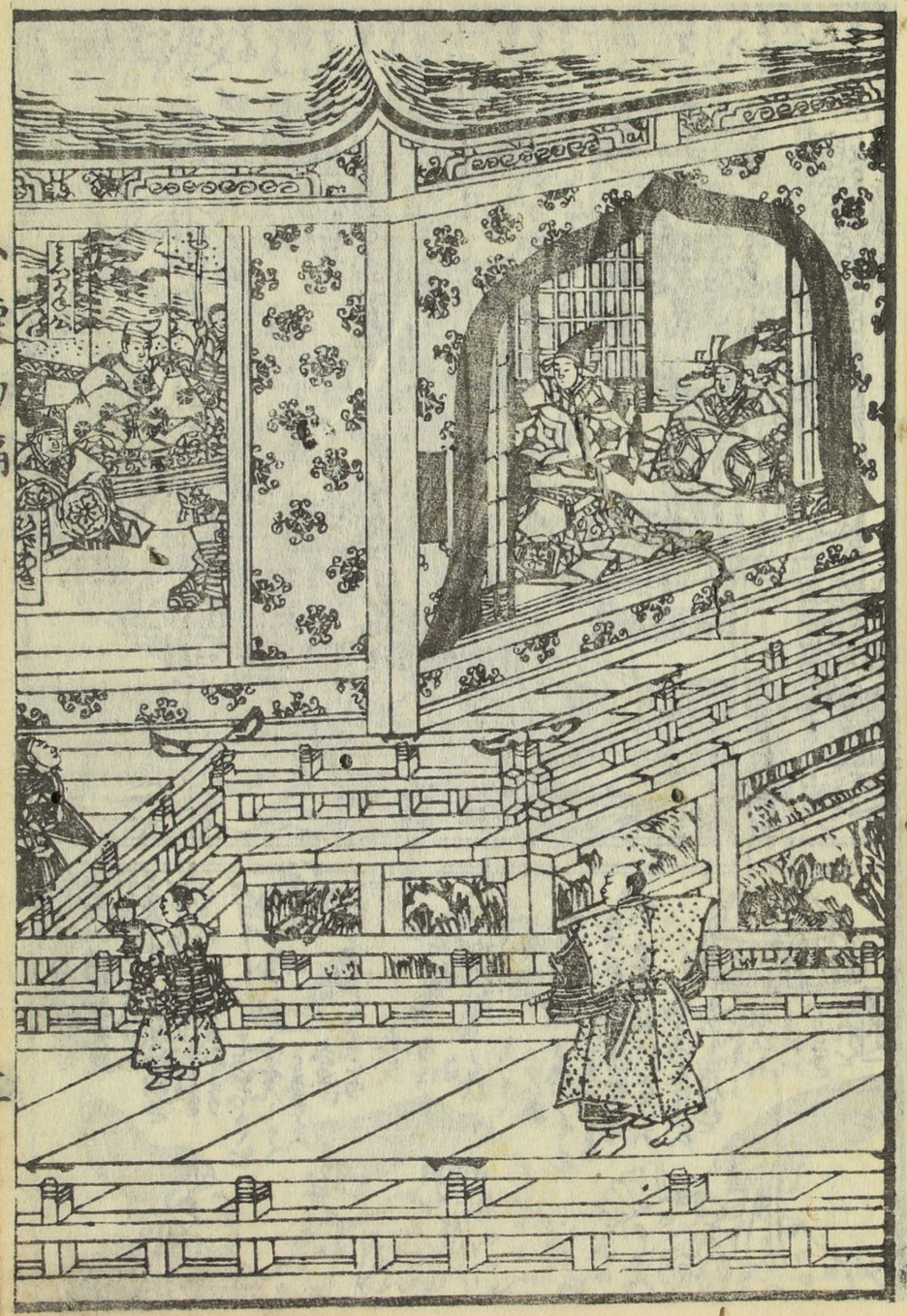
小弥太
后ふ池庄司
助長と号ふ

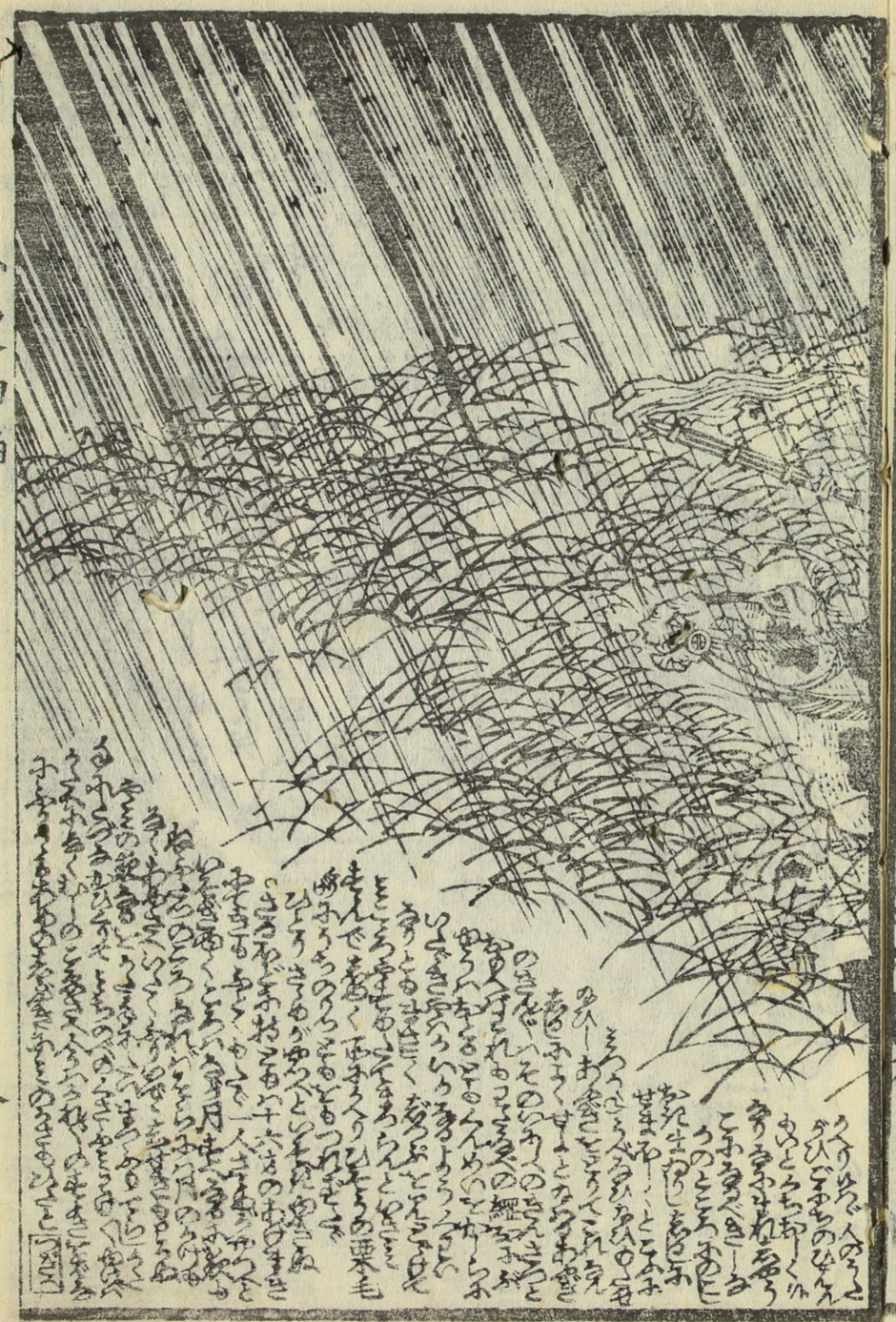
鎌倉怪異

修験者怒りて
急流ふ身をそこうふ

浦漁師網六が妻藤浪
藤浪處女 娥子

再出 照天姫





持

つゞき

つゞき

嘉永七甲寅新彫略目録

兒雷也豪傑譚

廿四編
廿五編
廿六編
一雄齋國輝画
柳下亭種員作

小女郎蜘怨麻環
三編讀切
馬琴作
國芳画

新編金瓶梅
十編揃
馬琴作
豊國画

小倉百人一首
極ざ〳〵きとり
小本壹冊

一雄齋國輝画
兒雷也豪傑双六
右双六は紙の中ゝを初へんゝ廿編近のうち面白きのよりきわとえらび美〳〵く仕立ゆる
芝神明前
甘泉堂版